

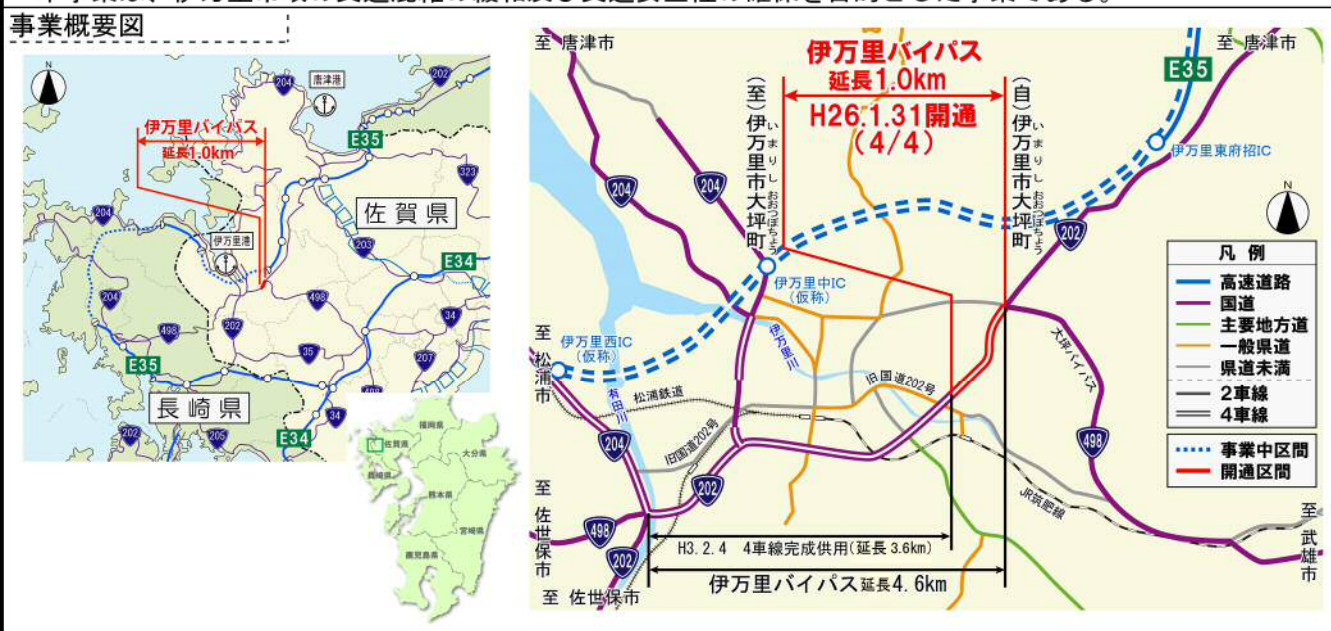
事後評価結果（平成30年度）

担 当 課：九州地方整備局 道路部 道路計画第一課
担当課長名：野村 文彦

事業名 一般国道202号 伊万里バイパス	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 九州地方整備局
起終点 自：佐賀県伊万里市大坪町 至：佐賀県伊万里市大坪町		延長 1.0km

事業概要
伊万里バイパスは、延長1.0km、4車線の拡幅事業であり、平成11年度に事業化し、平成25年度に完成4車線で開通している。

事業の目的・必要性
本事業は、伊万里市域の交通混雑の緩和及び交通安全性の確保を目的とした事業である。



事業の効果等	事業期間	事業化年度：H11年度 都市計画決定：S47年度	用地着手：H13年度 工事着手：H18年度	供用年 (暫定/完成)	(当初) —/H25 (実績) —/H25	変動 1.00倍
	事業費	計画時 (暫定/完成)	(名目値) — / 29億円 (実績値) — / 33億円	実績 (暫定/完成)	(名目値) — / 29億円 (実績値) — / 33億円	変動 1.00倍
	交通量 (当該路線)	計画時 (暫定/完成)	将来交通量 (H42) —/6,900~7,400台/日	実績 (暫定/完成)	—/15,670台/日	変動 212~227%
	旅行速度向上 (現道→当該路線)	29.3km/h (供用直前年次)H25年	→ 34.1km/h (供用後年次)H28年	交通事故減少 (現道→当該路線)	114件/億台和・年 (供用直前年次)H24~H25年平均	→ 87件/億台和・年 (供用後年次)H27~H28年平均
費用対効果分析結果 (前回再評価)	B/C 0.8	総費用 36億円 (事業費: 32億円 維持管理費: 4.0億円)	総便益 28億円 (走行時間短縮便益: 25億円 走行経費減少便益: 2.0億円 交通事故減少便益: 0.77億円)	基準年 平成23年		
費用対効果分析結果 (事後)	B/C 0.85	総費用 46億円 (事業費: 42億円 維持管理費: 4.1億円)	総便益 39億円 (走行時間短縮便益: 35億円 走行経費減少便益: 3.2億円 交通事故減少便益: 0.98億円)	基準年 平成30年		
事業遅延によるコスト増	費用増加額	—億円	便益減少額	—億円		
事業遅延の理由	特になし					

事業の 効果	客観的評価指標に対応する事後評価項目 <ul style="list-style-type: none"> 円滑なモビリティの確保。(国道202号の渋滞損失時間の削減：削減率約5割) 物流効率化の支援。(重要港湾へのアクセス向上：唐津市～伊万里港(約1分短縮)) 国土・地域ネットワークの構築。(日常活動圏の中心都市へのアクセス向上：伊万里市～唐津市(約1分短縮)) <p style="text-align: right;">他6項目に該当</p>
	その他評価すべきと判断した項目 <ul style="list-style-type: none"> 周辺に立地する小中学校では、4車線化と併せて整備された自転車歩行者道により、児童・生徒が安心して通学できる環境が形成され、地域住民も安全・安心を実感。 バイパス整備の進展とともに、沿道には商業施設などの立地が進み、伊万里中心エリアの賑わいや生活利便性の向上に貢献。
事業による 環境 変化	環境影響評価に対応する項目 環境影響評価の対象外事業である。
	その他評価すべきと判断した項目 当該区間の騒音値は、環境基準値を満足している。(昼間：74dB→67dB、夜間：70dB→60dB)
事業評価監視委員会の意見 審議の結果、事業の効果が発現しており、当該事業に関しては今後の事後評価及び改善措置は必要ないとした事業者の判断は妥当である。	
事業を巡る社会経済情勢等の変化 <ul style="list-style-type: none"> 沿線地域(伊万里市)の人口は減少傾向であるものの、一世帯あたりの自動車保有台数は佐賀県・九州全体より高い状況である。 交通量は約1.6万台で推移している。 	
今後の事後評価の必要性及び改善措置の必要性 <ul style="list-style-type: none"> 事業目的に見合った事業効果の発現が確認されており、更なる事後評価の必要はない。 伊万里バイパスの整備により、「交通混雑の緩和」「交通安全性の向上」「安全な歩道空間の確保」について一定の効果が得られており、また、「災害時の備え」や「沿道の利便性の向上」といった波及的効果にも貢献している。これらのことから、当面の改善措置の必要はない。 	
計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性 <ul style="list-style-type: none"> 伊万里バイパスは、伊万里市域の交通混雑の緩和及び交通安全性の確保を目的とした事業。市街化の変化に応じた段階的な整備により、国道202号の交通機能を確保しつつ、市街地の計画的な整備と連動を図ってきた。 市街化の進展と道路交通状況の変化に応じて、事業を段階的、一体的に整備してきたことで、増大する交通需要に対応し、大きな交通混雑や交通事故を発生させることなく、事業を完了することができた。 当該事業の適切な事業進捗に加えて、周辺地域の市街化やインフラ整備の状況を見据えながら、段階的な供用や周辺事業との調和が重要である。 また、事業評価手法については、一体となって効果を発揮する道路ネットワークについてはそれらをまとめて評価することも重要と考える。 	
特記事項 特になし。	

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。